## NPO法人大熊町ふるさと応援隊団体説明と大熊町の現状

特定非営利活動法人大熊町ふるさと応援隊 理事長 渡部 千恵子

震災と原発事故により私たちの価値観は大きく揺らぎましたが、旧来のものに替わる新しい生き方や社会モデル はまだはっきり見えていません。そんななか原発事故がもたらした教訓が忘れ去られたように、原発再稼働の話 題が報じられる昨今です。

3年半が過ぎた今新たな生活を踏み出した人々、町の復興計画を見守りながら町に戻る気持ちを持ち続けている人々、どうしようかと気持ちが揺れ動いている人々、こういった町民に寄り添い微力ながら大熊町創生町づくりに尽力していきたいと思い特定非営利活動法人大熊町ふるさと応援隊を発足いたしました。

大熊町行政、その他震災後から現在まで町のために尽力されている多くの機関と連携を取りながら、大熊町の復興の一助として働きたいと願っています。

今後、大熊町の現状を発信する活動をしていきたいと考えています。

#### ●当面の事業

### 1. 大熊町創生まちづくり事業

大川原地区を中心に、帰町するまちづくりに当り、町民の意識調査など、大熊町のまちづくりに協力します。また、帰町できない町民の意識調査を進め、町外コミュニティの推進を模索します。

## 2. スタディツアーの開催事業

居住制限区域のご案内、国道 6 号線を通過しての帰還困難区域のご案内、会津若松市の小学校訪問などを通して、 大熊町の現状を皆さまに知っていただきます。

#### 3. 避難者支援事業

仮設住宅にいらっしゃる大熊町民や、借り上げ住宅にいらっしゃる大熊町民の支援を行ないます。

9月28日、初めての仮設住宅の方々への支援イベントを行ないました。

東京の和太鼓集団 TAWOO (タヲ) とアフリカ楽器ジャンベ奏者 Sugee (スギ) さんのジョイントコンサートを 行ないました。皆さまで和太鼓を実際に叩くワークショップを行い、楽しいひと時を過ごしました。





# ●大熊町の現状 大熊町の全体



大熊町現地事務所のある坂下ダム

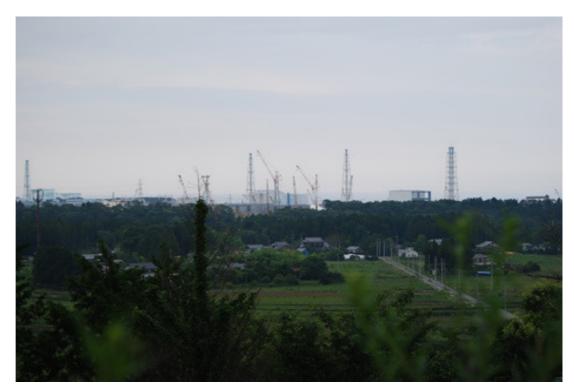




坂下ダム全景



福島第1原発



帰還困難区域入口





大熊町中心部







常磐線





海岸付近



スクリーニング



